

HFHJ Newsletter



ハビタット・ジャパン ニュースレター

第16号 2010年1月発行



166軒完成、カーターワークプロジェクト閉幕！（11/20）

メコン川流域の5カ国（タイ、ベトナム、中国、カンボジア、ラオス）で実施されたジミー＆ロザリン・カーターワークプロジェクト（Jimmy & Rosalynn Carter Work Project—Mekong Build 2009 : JRCWP09）が、11月20日、5日間の全日程を無事終え、閉幕。今回のプロジェクトを通じて建築された家は166軒。メイン事業地であるタイ・チェンマイでは、第39代米大統領ジミー・カーター夫妻、そして各界の著名人を含む総勢2,000人（5ヶ国全体では3,000人）ものボランティアが、12月に82歳を迎えるタイ国王の年齢にちなんで82軒の住宅建築に参加しました。日本からも、チェンマイへ15名が参加。82軒のうちの1軒を建築！ホームオーナー家族と共に汗を流しました。



中田英寿さん（タイ・チェンマイ）

元サッカー日本代表 中田英寿さんが参加！

JRCWPには毎回多くの著名人が参加しますが、今回、日本からはあのスターが参加してくれました！そう、サッカー日本代表で活躍した「ヒデ」こと中田英寿さん。中田さんは、流暢な英語で「ホームオーナー家族と一緒に家を立てるというのは素晴らしい」と笑顔で話してくれた通り、カメラや報道陣に視線を投げかけられながらも、終始自分の仕事を黙々とこなしている姿が印象的でした。「それにしても、ヒデが家を建てるところもカッコいいですね！」。参加者からは、そんな感動とため息も漏れていました。他にも、中国のアクション映画俳優ジェット・リーさんをはじめ、現場は多彩な顔ぶれ。今年は複数国での同時開催ということもあり、開



ジミー・カーター元米大統領
（中国・雲南省）

催国の著名人だけでなく、台湾、香港、韓国、インド、スリランカといった近隣諸国で活躍する著名人もプロジェクトを盛り立てました。

チェンマイの住環境

チェンマイは、JRCWP09開催5カ国の中で最大の事業地に指定されまし

た。タイの首都バンコクに次ぐ第二の都市ですが、チェンマイ郊外では近年、仕事や安定した生活を求めて都市部への移住が進んでいます。しかし、十分な生活保障制度がないため、彼らのほとんどがスラムでの生活を強いられる結果に陥っています。…＜特集面に続く＞

復旧・復興段階へ：フィリピン洪水・インドネシア大地震

フィリピン・台風水害被災者支援

現地では被災者1,000万人、被災住居50万軒とも言われる台風水害に対し、マニラ中心部マリキナ市やケソン市などで、避難センターでのトイレや簡易風呂の設置、また住居修繕キットの配布を実施してきました。現在、支援の中心を2,000軒の簡易シェルター建築へと本格化し、復旧・復興段階に移りつつあります。

インドネシア・スマトラ島&ジャワ島西部沖地震被災者支援

またインドネシアでも緊急支援を継続しており、西スマトラ州パダン市を壊滅状態に追い込んだ大震災（死者約1,100人、被災住居約20万軒）に対しては、パダン市から約120km離れたコド・ガンティン地区において、水の供給や住居修繕キットの提



住居修繕キットを受け取る被災者
（フィリピン）

供を行ってきました。今後100軒の住居建築を進める予定で、現在最初の10軒の建設を行っています。

義援金報告（2009年10月末時点）

- ・フィリピン 627,839円
- ・インドネシア 52,681円

皆様のご支援ありがとうございます。引き続き、義援金の受付は行っております。ご協力よろしくお願い致します。※詳しくはホームページをご覧ください。（事務局）



初支援！ネパールGV活動報告&体験記(09.8/16~31)：同志社大学CC



完成したハビタットハウスとホームオーナー家族

なぜ、支援？ネパールの住環境

世界の屋根とも呼ばれるエベレストの入り口として、また数多くの世界遺産を巡る観光地として有名なネパール連邦民主共和国（以下、ネパール）。その一方で、度重なる洪水や地滑り、地震といった災害により主要産業である農業へのダメージは大きく、また住民が住む家までもが危険にさらされている世界最貧困国という側面も持ち合わせている。

このような社会状況によって雇用環境は悪く、そのため首都カトマンズへの人々の流入は止まらず、小さな家に大勢の人が住まわざるを得ない状況があります。また、都市部に偏った社会発展により、地方では、標準以下の危険な家が立ち並んでいる状況です。政府情報によると、430,000世帯が標準以下の居住環境（※1）での生活を強いられているといわれています。

■ネパール連邦民主共和国

◆首都：カトマンズ ◆宗教：ヒンドゥー教（81%）、仏教（11%）、イスラム教（4%） ◆失業率：42% ◆「標準以下の家」って？
⇒かやぶき屋根＋むぎ壁＋古い建材・竹の柱でできた家。
トイレ・電気無し。毎年、10,000世帯の家が火事で焼失。

そんなネパールで、今回、日本初となるGVチームとして私たち同志社大学CC（15名、国内サポート2名）が住居建築支援活動を行ってきました。

「竹」による家づくり－現地資源の活用－

ネパールでの建築方法は非常に特殊で、材料は主に「竹」を使用。作業内容は、竹割り・削ぎ・編みと多岐に渡り、全てが初物尽くし！これまで経験のない作業でしたが、現場の隣にすでに完成していた家を見本に作業を進めました。作業中、現地スタッフから「8月中旬に毎年訪れる大雨による災害が現地住民にとって大きな問題。だけど、どんな状況でも（適切な家を持つという）夢に向かって支援を続けることが大切。」という言葉聞いて現地支援活動のパワーを強く感じました。



「共に汗を流し、共に築く」、A・LA・LA！

A・LA・LA！（あらら…）これは現地スタッフが作業中、いつも私たちを笑わせてくれた言葉。たった一言ですが、一言で雰囲気や考えを前向きに変えるパワーを持ち、私たちの胸に深く残る言葉になりました。また、作業の合間には建築資材でもある「竹」を使った流しそうめんを企画。大きな笑顔、笑顔、そして笑顔。国や文化の壁を越えてみんな一緒に楽しむことができたひとは、まさに、共に汗を流し、絆を築いた最高の瞬間でした。

今回、支援のため訪問したネパールで、支援すると同時に、数多くの学びを得るギュッと詰まった2週間になりました。ご支援頂いた方々に感謝致します。次はあなたもネパールGVへ！（同志社大学CC・近藤佳奈）

海外建築ボランティア
個人参加者募集中！

地球の歩き方 2010番



今 春もタイのバンコク郊外で住居建築活動を行います。貧困や災害で苦しむ現地住民のために、その家族と一緒に協力し合って家を建てていきます。作業は安全基準をクリアした建築現場でのみ行いますので、建築経験やスキルは一切不要!! ワークの他にも孤児院、幼稚園または小学校を訪問し、現地の子供たち

と交流する他、バンコク市内観光、最終日にはお別れパーティーなども予定しています。
（明治学院大学CC・中村亜絵美）



締切間近！

■ 今後の日程 ■ ※詳しくはホームページで

- ① 2月23(火)出発～3月2(火)帰国(タイ・バンコク)
- ② 3月9(火)出発～3月16(火)帰国(タイ・バンコク)



関東&関西キャンパスチャプター 国内での活動展開

ハビタットの活動を通じて、若者の夢・希望の実現を後押しするユースプログラム。この大きな原動力となっているのがキャンパスチャプター(CC)、キャンパスクラブ(CClub)と呼ばれる学生団体。今回、年末にかけて行われた関東・関西CC & CClubによる活動の一部をお伝えします。(東海大学CC・新城 洸一)

<関東イベント>

Merry Merry Habitat ...

新宿の「新宿眼科画廊」にて2009年12月13(日)に写真展を開催しました。前回はダンスイベント “house dance peace” ★...そして今回はガラッと変えて、写真展 “Merry Merry Habitat”。コンセプトは「夢」！支援先の子供たちの“夢”の絵や各CCの支援先での思



い出フォト、GV参加者の直筆体験談の展示、活動ビデオ上映&メンバーによる生トーク、夢を画用紙に書いた写真スライドショー！来場者の皆さんには、レンガ型の小さな布に「家に必要なもの？」を書き、家型の大きな布に貼ってもらいました。来場者の中には、通りすがりの親子や「子供が参加するのが心配で、GVとはどんなもんなのか見に来た」という方もいて、大いに盛り上がりました！活動を知ってもらう事は勿論のこと、JCCのみんなが協力すれば何かスゴイ事ができちゃうような可能性を感じます！これからもJCC盛り上げて行きましょう！最後に、ご来場、ご協力頂いた皆さま、有り難うございました！く(^ 3 ^) chu-♥ (東海大学CC・大川麻衣子)

関東JCC合宿 (11/21-22)

2日間に渡って千葉県柏市で開催した関東JCC合宿の1日目は各CCが今夏の支援活動成果を発表しました。中にはプロモーションビデオを自主制作したCCもあり、現地状況や住民の生の声がダイレクトに伝わって、日常味わう事のない現場の緊張感を知りました。2日目は神田外語大学CCの企画によるワークショップを行い、各CC間の理解を深めることが出来ました。(東海大学CC・佐藤裕介)



「幸せ」を描くと・・・

関西JCC合宿 (12/12-13)

今回、関西学院大学CClub(三田キャンパス)の主催により関西JCC冬季合宿が行われました。テーマは「HOME」。200名以上のメンバーが一つの場所に集い、報告会では自分たちの活動を手作りポスターで紹介し、ワークショップでは座談会やスゴロクを使用しての模擬住居建設活動などを行いました。2日間という短い間でしたが、200名が持つ熱い気持ちを語り合い、意見を共有し、関西JCCがひとつの「HOME」になりました！(立命館大学CC・小松沙耶)



<関西イベント>

国際協力への第一歩！



京都の新風館で2009年12月6日(日)に行われた国際協力イベント「HOT STEP」にハビタットブースを出展しました。イベント運営にはキャンパスチャプターの一つである立命館大学CCのメンバーも携わり、ハビタットブースには多くの関西メンバーがスタッフとして参加し、「ハビタットをもっと多くの人に知ってもらいたい」との思い

を持って来場者への説明を行いました。HOT STEPは国際協力に興味がない人にもその第一歩を踏み出してもらおうとの趣旨のもと開催されているもので、この機会にハビタットの活動紹介ができたことはとても意味のあることだったと思います。ブースではほかにも「あなたにとって家とは？」という質問に来場者の「家」に関するイメージを書いてもらったり、カレンダーの販売も行いました。カレンダーは70部を完売！このようなイベントを通して、もっともっと多くの方々にハビタットを知ってもらえるようになればいいなと思います！(関西学院大学CClub/三田キャンパス・門林あき)





Travelers with a Purpose (目的ある旅) ハビ人集会 (11月・12月)

▼11/9のTWPでは、「フィリピンとインドネシア—私たちのみた光景、災害を経て今」と題し、早稲田大学CClubと青山学院大学CClubが報告。昨秋災害に見舞われた両国で、偶然にも被災前の夏にそれぞれGV活動を行っていたチームメンバーが、活動中や被災前の現地の様子と合わせ、自分たちにできることを伝えました。▼09年最後のTWP (12/1)のトピックは、11/20に閉幕したジミ・&ザ・リン・カーターワークプロジェクト。日本からタイ・チェンマイでのワークに参加したボ



ランティアも集まり、その冷めやらぬ興奮を共有しました。
(事務局)

■次回開催予定：日時・場所：2月1日（月）19:00- @ Ben's Café (高田馬場)、テーマ：海外事業事例紹介～バングラデシュ災害支援 (122軒建築)、政府との取組みと今後の展望等ご紹介 ★ハビ人集会 (TWP) は、ハビタットやボランティアなどに関心を持つ「ハビ人」たちが、気軽に情報交換などを行うアットホームなイベントです！

学生編集部

あけましておめでとうございます！

私たち学生編集部はハビタットの学生支部であるキャンパスチャプター・クラブから有志を募り、年4回発行の本誌に掲載される記事の執筆作業を行っています。昨年4月春号から編集作業のお手伝いをさせてもらい、夏号秋号と続き今号でちょうど1年が過ぎようとしています。これまでハビタット・ジャパン事務局と連携を取り、私たち学生チームは編集会議や取材活動を学生ならではの視点も組み入れ、機動力を発揮して行っています。本年もこの勢いをそのままに頑張っていこうと思います！（青山学院大学CC・梶川晃）



寄付・助成金リスト (2009.10.1-12.31)

みなさまのご支援は「誰もがきちんとした場所で暮らせる世界」実現のために使わせていただきます。ご支援ありがとうございました。
(敬称略・順不同)

10/7	川崎 耕次	1,775
10/14	立命館大学 Rits Habitat	133,095
10/14	関西学院大学 ECO HABITAT	55,866
10/19	京都外大 HABITAT	22,135
10/21	和久 倫也	10,000
10/28	関西大学 Muster Peace	21,300
10/29	足立インターナショナル・アカデミー	313,833
10/30	早稲田大学 WHABITAT	102,910
10/30	京都外大 HABITAT	31,381
11/26	白取 裕子	30,000
11/26	関西学院大学 上ヶ原ハビタット	58,052
11/30	藤井 信也	3,000
12/2	宗教法人 カトリックイエズス会	20,000
12/9	関西大学 Muster Peace	40,246
12/9	京都外大 HABITAT	6,000
12/15	(株)レガメント	900
12/17	同志社 HABITAT	92,596
12/18	同志社 HABITAT	18,007
12/18	西那須野幼稚園	19,920

新年ご挨拶 & 編集後記

新年明けましておめでとうございます。昨年中は、皆様からの心温まる多くのご支援を頂きありがとうございました。スタッフ一同、厚く御礼申し上げます。ハビタットは、1976年の設立以来、昨年までに35万軒の住宅建築支援を完了。175万人以上の人々の適切な住まいを提供し、新生活を見守ってまいりました。2010年はより一層、広く一般に開かれた活動を目指して、スタッフ一同精進してまいりたいと思っております。皆様からのご指導ご鞭撻を賜ります様、よろしくお願い申し上げます。（事務局）

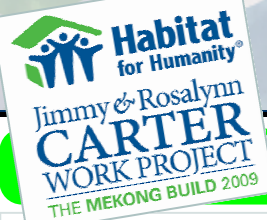


ハビタット・フォー・ヒューマニティ・ジャパンは住宅を建てることでコミュニティを築く自立支援型NGOとして、これまで、人種、宗教、国籍に関係なく100カ国で30万軒余の住宅建築支援を行ってきました。そして現在、世界中で21分に1軒のペースで住宅を建てています。

〒160-0023 東京都新宿区西新宿4-17-3
ベル・パークシティ西新宿217
Tel: 03-6304-2543 / Fax: 03-6304-2544
URL: www.habitatjp.org / Email: info@habitatjp.org

発行人：芹澤充子
編集人：山崎顕太郎、山本真太郎、梶川晃（学生代表）





HFHJ アップデート<特集>

Japan Update Special Edition



ジミー&ロザリン・カーター ワークプロジェクト報告 (11/15~20)



左からジミー・カーター、中田英寿、ジェット・リー（敬称略）

住 宅は、なんとか日差しや雨風を防げる程度のいわば小屋同然のものも多く、生活に最低限必要な要素すら整っていない現実があります。今回のJRCWP09と166軒の建築は、今後ハビタットがこれらメコン川流域の5カ国において、5年間にわたり継続的な取り組みを見せていく中長期支援計画の口火を切るスタートとして行われました。

ジャバンチームも現地で奮闘！

世界から3,000人のボランティアが集まる中、日本からもハビタット・ジャパンを通じて15名（タイ14名、ベトナム1名）が参加。チェンマイでは82軒の中で「ハウスNo.8」を担当することに。参加者はそのバックグラウンドや年齢、参加の動機も千差万別。日



本在住のアメリカ人やオーストラリア人もいれば、ハビタットの住居建築に関わるのは初めてという参加者もちらほら。

「ハウスNo.8」のホームオーナー家族は、ニランさん一家。これまでの住居はシロアリも発生するほどの老朽化で、これから大事な時期を迎える子供たちとの生活を考え、ハビタットに住宅建築支援を申請、夢のマイホームを持つキップを手に入れました。

■参加者の声：これまで多

くの建築活動を経験してきましたが、今回のプロジェクトは今までとは異なり、全てがでかくて毎日が驚きの連続でした！2,000人ものボランティアと一緒に家を建てたことで、またひとつ僕の中でハビタットの魅力と可能性を見出すことができたように思います。（関西大学・岡村匠）



写真中央-岡村さん

下) プロジェクト最終日の風景



日本が冬へ向かう中、チェンマイでは平年の11月にはない炎天下。そんな直射日光も厳しく、水分の補給は欠かせない気候条件の中、マイホームを持ちたいと

下) プロジェクト前日の風景



願い、作業にも献身的に参加するニランさん一家の姿に幾度となく刺激を受け、セメント作りからブロック運び、屋根の取り付け作業に至るまで必死になって取り組みました。

最終日、内装など一部の作業を残して、ニランさん一家の住居がついに完成。家の中で全員が集まり、カギの進呈式（House Dedication）が行われました。参加者一人一人が、自分たちが建てた家が一家族の希望につながるという思いを胸に、感動の瞬間を見守りました。今年1月に入り、チェンマイでもほぼ全ての家族が、新しいホームへの入居を完了しています。

今年はアメリカ・ワシントンD.C.他で開催！

熱い一週間はまだ終わったばかりですが、すでに次回プロジェクト（JRCWP10）に向け、開催地アメリカ・ワシントンD.C.に場所を移し準備が着々と進められています。国連の定める「世界ハビタット・デー」の10月第一月曜日に合わせ、10/3~8日の日程で、都市部のスラムや貧困問題の解決へ向けた一歩となることが期待されています。（事務局・山本真太郎）

■参加者の声：あれだけ多

くの家が一齐に建ち上がる光景は壮観でした。アメリカのEntertainmentとタイのHospitalityとが1つに盛り込まれたテーマパークの中で、とても楽しく、でもしっかり働いた、そんな1週間でした。82家族の新生活が始まった現場、見てみたいです。（会社員・牧野けい）



中 田宏 前横浜市長とハビタットの活動について会談する機会を頂きました。会談では、ハビタットが展開する活動の今後の方向性について議論・提案を頂くとともに、これまでの行ってきた活動と、ボランティア参加の仕組みに対して高

ハビびと

株式会社コスモスイニシア

タ イ・バンコクで実施する住居建築事業の支援を
2009年夏、(株)コスモスイニシア社員有志が行った。会社生活では縁遠くなってしまうがちな社会貢献活動だが、多くの同僚に、気軽にそして意志を持って参加してもらおうと、単なる寄付ではなく、貯金やダイエット、営業成績等、各々が個人目標を設定、それを達成できたら支援活動に参加してもらうという社内コンペ形式の企画を提案、住宅一軒の支援を可能にした。その先頭に立ったのがこの人、西郷民紗さんだ。



学生時代から、外国人留学生（→ベトナムのストリートチルドレン）の奨学金支援を行う支援団体を立ち上げるなど、社会貢献に対して高い意識を持っていた。そして、社会人になってからも周囲を巻き込んで何かをしようとの思いから、今回の支援活動に至ったという。

所属部署は営業。休日返上で忙しい業務をこなす。「CSRの実現は簡単ではないが、きちんとした商品の提供で顧客に信頼してもらうこともCSRの一環」と語り、CSR部署ではないが？との問いには、「全てが自分自身の糧ですから」と穏やかな中にも芯の強さを感じる答えが返ってきた。

静岡県にある「国立中央青少年の交流の家」に、全国各地からハビタットの活動を展開する学生団体(CC & CClub)が集い、「交流 & 理解」というテーマのもと、ワークショップが開催されました。(青山学院大学CClub・梶川晃、永岡麻咲)

CC&Cclubは、メンバーが100名を越える団体もあれば、まだ設立したばかりで10人にも満たない団体もあるなど多種多様。全国から15団体が集結！初めは各々が不安や緊張の面持ちを浮かべていましたが、アイスブレイクや各団体メンバー紹介を経て本格的にプログラムが始まりました。

2つのワーク課題

今回のワークショップで

今回のワークショップではハビタットが取り組む貧困住宅問題への理解を深めると同時に、活動にかかわるメンバー同



田外語大学
英 語学
下

て、一宿に参加し、合宿に参加し、は今まで全く知らないなかでつくた人達、でも同じ志達、を持った仲間と交流できたこともです。たわいもない話から自分達の活動意義など深い話まで沢山の話をすることができました。また、他大の学活動内容そして活動意欲に多くの刺激を受けた。そして、自分にもできることがある。自分から行動しなければ何も始まらない」と感じさせられる二日間でした。是非また参加したいと思っています。

A photograph of a smiling woman and a young boy. The woman, with long brown hair, is wearing an orange patterned scarf and a dark jacket. The boy, with short dark hair, is wearing a striped shirt. Both are making peace signs with their hands. They are standing in front of a brick wall and some outdoor equipment.

■参加者の声